

生理研アーカイブズの構築

村上政隆、山岸俊一 生理学研究所
(生理科学専攻、生理学研究所点検連携資料室)

1. 点検連携資料室

生理学研究所は1977年5月に発足した。生理学研究所アーカイブズは、情報処理発信センター内の点検連携資料室において構築を開始した。情報処理発信センターの業務は、1) 広報の役割、2) 業績資料の集積/評価資料作成、3) 教育活動、4) 所内のネットワークの維持管理をそれぞれ、広報展開推進室、点検連携資料室、医学生理学教育開発室、ネットワーク管理室が、担当する。点検連携資料室には、併任で室長(教授)、副室長(准教授)、事務補佐が配置され、アーカイブズの構築は副室長が担当しており、山岸(名誉教授)、村上(副室長)、芝村事務補佐が、定期的に月曜日午後3時間集まり、資料の整理と記録を行っている。

生理学研究所では、1993年より毎年点検評価を行ってきた。2004年の法人化後は、それに加え年度計画の作成・業務実績報告書の作成などを行ってきたが、資料の蓄積と効率化を図るために、2007年より点検評価資料室を設置した。折しも、総合研究大学院大学のプロジェクト研究課題「大学共同利用機関の歴史」が始まり、歴史資料の収集・整理・保存とアーカイブズ構築と有効利用の必要性が生じた。点検連携資料室では、従来の資料収集に加え、過去の歴史を史料として蓄積する業務を開始した。2008年より所内に散在していた史料を2つの部屋に集結させ始めた。史料室Aは研究所としての史料を保管し、資料室Bには個人の記録・資料を保管することにした。

2. 史(資)料の収集と分類

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

史(資)料は、山岸による以下の分類で整理した。

1. 生理学研究所出版物
2. 職員・研究員・大学院生 等 記録
3. 委員会記録
4. シンポジウム・研究会・セミナー
5. 保存資料
6. 個人論文・著作ファイル
7. 生理研関連出版物
8. 生理研紹介出版物・記事+映像記録
9. 寄贈図書・寄贈品

上記1～4については、1年かけて、項目順に年代順に書架に並べ、一見して不足が分かるようにした。資料分類1の生理学研究所出版物は以下のように分類整理し、配架した。

- A. 年報(設立当初より 毎年200-300ページの報告書を出版している)
- B. 生理研史(10年のあゆみ、20年のあゆみ、30年の歩み)
- C. 自己点検評価報告
- D. Collected papers(設立から2001年まで、代表的な論文の別刷りをバインドしたもの)
- E. シンポジウム出版物(生理研カンファレンス、生理研国際シンポジウム)
- F. トレーニングコース出版物(1990年以降、毎年実施しており、参加者名簿も含む)
- G. 生理研要覧(和文・英文)
- H. 技術課出版物
- I. 生理研ニュース
- J. 施設利用の手引き
- K. 生理研サーキュラー(1978～1992)
- L. 新プログラム創成的基礎研究(1990～1995)
- M. 出版物 年毎全ファイル

資料分類 3 の委員会記録は 教授会、評議員会、運営協議会の記録を含む。資料分類 5 の保存資料は、以下の分類で、スチールキャビネット内に保管した。

- A. 概算要求記録
- B. 設立準備記録
- C. 総研大生理学専攻設立記録
- D. 生理研建物建築記録
- E. 写真・アルバム

「生理学研究所の設立まで」を執筆するにあたり、保存資料のうち B 設立準備記録を利用した。「生理学の将来を考える若手の会」から準備室まで、設立の軸として活動してきた山岸の収集した資料を中心に整理を始めた。それには、生理学会が発足させた生理学振興委員会、将来計画委員会、設立準備委員会などの記録、研究所案、文部省国際学術局の資料、学術会議の資料などが含まれる。

3. データベースの構築

公刊印刷物の整理と配架の目処がついた時点からファイルメーカープロによりデータ入力を開始している。現在 生理研出版物 A から G まで、約 180 件を入力した。この間、資料の電子化について検討し方針を決めた。紙資料は書架に並べ、背表紙から、資料の所在が一目で分かるようにした。これにより欠落資料の予測が簡単につけられ、また資料を手にとってチェックできる利点がある。

- 1) 年報： 最近刊行されている年報は、ホームページで公開されているので、電子版はホームページサーバに保存されている。資料室ではまだ pdf 化されていない年報を早急に電子化し、ホームページと連携する方針を決めた。効率よく pdf 化するため、コピー機のスキヤナー機能/pdf 化機能/ネットワーク機能を利用して、背表紙を落とした年報を読み取らせ、pdf をサーバに移動させた。このとき、後で検索可能にするため、OCR 可能な pdf ファイルにした。
- 2) Collected papers としての研究所の論文別冊の収集が継続されていなかったため、2002 年以降の出版物の印刷物および電子版を各部門

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

に依頼して資料室に送ってもらった。これらの資料は、各部門名を付した中性紙資料箱に整理保存し、電子版は、各部門に対応するフォルダーを作り、サーバに格納した。

<i>NIPS Archives Database (2008-)</i>	
入力年月日	2010/2/1
照合年月日	2010/2/1
整理年月日	2010/2/1
ID Number	05B001
資料提供者	山岸 (生理研)
文書・資料名	生理学将来計画第一次案
副題	
時期	1965.6
資料内容	生理学将来計画、生理研設立計画
資料作成者・機関	生理学将来計画委員会 (日本生理学会)
発行・作成年月日	1965/6/1
機関情報	生理学将来計画委員会 (日本生理学会)
資料の形態	冊子 製本
性格情報	将来計画案
会議名情報	
分野・目的情報	生理学研究所 総記
研究分野情報	
所在情報	スチール書棚
予備数	
参照記号番号	
修復記録	
備考	HC=, SC=, Abst= (pre)

- 論文別刷りの著作権は出版社にあるため、資料室のデータベースとして印刷物については、タイトルのみを公開して、個々の論文本体は検索者の責任で所属機関が購入の電子ジャーナルからダウンロードをお願いすることにした。
- その他の研究所からの印刷物も年報と同様の電子化を行う。
- 写真記録の電子化の方法は、現在効率よい方法を検討中。

- 6) 核融合研で開発されたフォームを下敷きにして、前ページのフォームを作成し、データベースの入力を開始した。
- 7) データベースは、まず、生理学研究所ホームページとリンクし、その後、先行している NIFS, IMS の指導を仰ぎ、EAD 化を進めることにした。
- 8) 生理研設立準備期の資料には、設立準備委員から寄せられた個人資料の箱を用意した。その中の山岸資料からまず整理し、設立までの歴史をまとめる。その後、この史料を pdf 化する。複数ある印刷物はまとめて製本する。これをひな形として、他の個人資料の整理方針を明確にすることにした。
- 9) 研究所が作成したビデオ、音声テープは、デジタル化して保存することにした。
- 10) 「アーカイブズ2008」で小沼／平田両先生よりご指摘があったように、それぞれの資料は 誰が、何時 集めたのかを資料提供者欄を設け、記録し、資料収集の意図をも歴史資料として残すことにした。

4. 終わりに

生理学研究所での具体的な活動開始から2年が経過し、成立に関する歴史の記載の第一版ができた。本プロジェクトグループが後押ししてくれた賜物である。研究所の資料室が研究所内で孤立していたのでは不可能であったろう。何度かの集まりで各研究所の独自の成立史を学ぶことができ、種々のアーカイブ手法を勉強させて頂いた。岡崎地区は3つの研究所が同じキャンパスにあり、2ヶ月に一度資料室担当が集り、情報交換をしており、これを継続して共同作用にも広げてゆきたい。

生理研アーカイブ作成の方針はまとめ、作業が開始されたが、週3時間から4時間ではスピードは遅い。しかし、作業は着実に進んでおり、生理研アーカイブの公開をめざして頑張るつもりでゆきたい。

生理学研究所は創設より33年になる。今回、創設までの歴史を記録し、初めて創立に努力した生理学者の気持ちに触れることができた思いである。執筆の最終段階で記述の裏付けをとるため、初期の日本生理学

第1章 基盤機関アーカイブズの構築

雑誌を図書館で手に取ったところ、さらに記録すべき記述を見いだした。データは埋もれていては役に立たない。役に立つためには利用することである。アーカイブズはそのための手だてであろう。今後、日本生理学会の歴史記録を目的としてアーカイブズ作成が新しい作業となろう。

本活動を通じ、研究分野の異なる研究者にお会いしてお話ができる機会ができたことは、そのこと自体で新しい将来のための情報を教えていただいた感がある。このプロジェクトを進めていただいた平田先生、松岡先生に深く感謝したい。また、KEKのアーカイブズグループの詳細にわたるアーカイブ手法のレクチャは、大切なモデルとして勉強させていただいた。その他数えきれない方々にご教示いただいたことを感謝する。

参考資料

- ・村上政隆「生理学研究所点検連携資料室について」総合研究大学院大学「共同利用機関の歴史とアーカイブズ 2008」19-30, 2009.